



堤ヶ谷遺跡からの眺め 竜王町の平野が一望できます。



弥生時代の石器 左：石鏃・石鏃未製品 右上：玉未製品  
右下：石包丁



堤ヶ谷遺跡の位置

## 戦いに備えたムラ？

堤ヶ谷遺跡で調査した弥生時代のムラは、眼下の平野を一望にできる標高 150mの丘陵上から北側斜面上部にかけて（東西約 150m、南北約 50mの範囲）に広がっていました。弥生時代の集落の多くは、稲作に適した平野に営まれましたが、近畿地方～瀬戸内地域を中心とした地域では、稲作に適さないものの、眺望がきく丘陵上に特殊な集落が造られました。これらは高地性集落と呼ばれ、戦いに備えて造られた集落とされ、今回調査した堤ヶ谷遺跡もこの一例と考えられます。

今回の調査では、武器に使用されたとみられる石鏃や集落内で石鏃を作っていたことを示す石鏃の未製品も数多く見つかり、それを裏付けるものといえます。一方で、稲刈りに使用する石包丁（平成 24 年度調査出土）や、勾玉や管玉などの装身具を作っていたことを示す玉未製品なども出土しており、平地の集落と変わらない生活を営んでいたことも明らかとなりました。

現在、滋賀県では高地性集落と考えられる遺跡が堤ヶ谷遺跡を含めて 11 例ほどが確認されています。その多くは大津市高峯（たかみね）遺跡など、湖西地域に所在しており、湖東平野では堤ヶ谷遺跡を含めて 3 例が知られているだけです。

こうした堤ヶ谷遺跡の姿は、弥生時代に多くの集落が営まれながら、高地性集落がほとんど確認されていない湖東地域の弥生時代を考える上で貴重な成果といえます。

## まとめ

- ① 堤ヶ谷遺跡が平野への眺望がきく丘陵先端の尾根～北側斜面上部（長さ約 150m、幅約 50m）造られた弥生時代中期（約 2,000 年前）の高地性集落であったこと。
- ③ 石鏃や石鏃の未製品が多く出土することや集落の造られた場所からみて、戦いに備えて造られた集落であった可能性が高いこと。
- ④ 稲刈りに使われた石包丁や装身具を作っていたことを示す玉未製品などが出土することから、稲作や玉作りなど平地の集落と変わらない暮らしが営まれていたこと。

# 堤ヶ谷遺跡発掘調査現地説明会資料

平成 27 年（2015）2 月 1 日（日） / 公益財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして  
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会  
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages

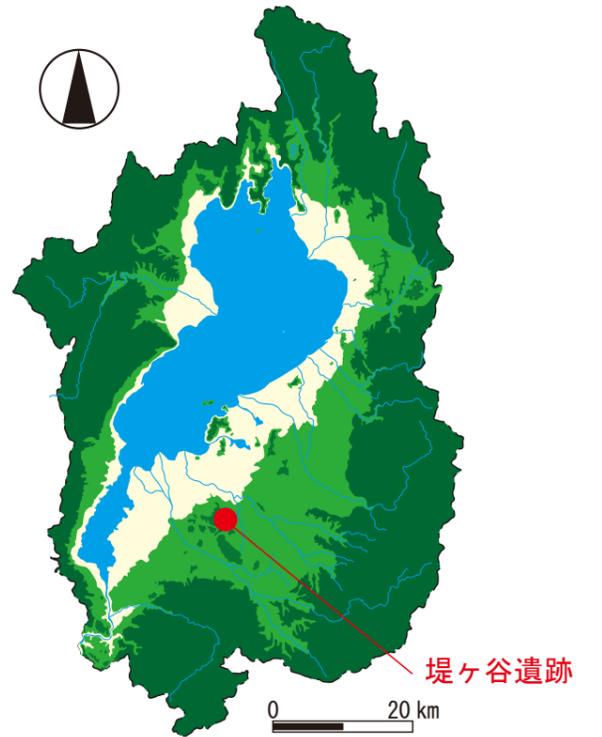
## はじめに

■堤ヶ谷遺跡（つつみがたにいせき）は、滋賀県蒲生郡竜王町岡屋（がもうぐんりゅうおうちょうおかや）にあり、弥生時代中期・中世（鎌倉時代～室町時代）の複合遺跡として知られていました。

■丘陵一帯の造成工事計画にともない、滋賀県教育委員会が調査主体、公益財団法人滋賀県文化財保護協会が調査機関となって、平成 23～26 年度に発掘調査を実施しました。

■平成 23～25 年度の調査では、弥生時代の竪穴住居や中世～近代の墓地跡や地下壕などの戦争関連遺跡が見つかりました。

■今年度調査では、縄文時代の落とし穴 2 基や弥生時代中期（約 2,000 年前）の竪穴住居 3 棟、中世の墓 21 基などの遺構が見つかり、弥生土器や石器（磨製石斧・石鏃（やじり）・石鏃未製品・玉未製品）のほか、古墳時代の金環・須恵器、中世の土師器・銅銭などが出土しました。



堤ヶ谷遺跡全景 丘陵上～北斜面にかけての広い範囲に弥生時代中期のムラが見つかりました。



**竪穴住居 1** 床面に炉跡が残っていました。



**復元された竪穴住居（参考資料）**  
地面を掘りくぼめて、その上に屋根をかぶせたような造りの家です。  
(写真は岩手県樺山遺跡の復元住居)



**竪穴住居 2** 周囲に測溝をもつ円形の住居です。斜面地に建てられたため、床面のかなりの部分が削られていました。溝からは完形の磨製石斧が出土しました。屋根を支えていた柱の跡（丸い小穴）が弧を描くように並びます。



**竪穴住居 3** 平面の形が四角い竪穴住居です。屋根を支えた柱の跡（柱穴）が見つかりました。



**縄文時代の落とし穴**  
底にある小穴には、獲物を仕留めるため、上端を尖らせた杭が立てられていたと思われます。



**古墳時代の耳飾**  
金環（きんかん）とよばれる古墳時代の耳飾りです。青銅の棒を円形に曲げて、表面に金板を貼り付けたものです。中世の溝から見つかりました。



**中世のお墓**

中世のお墓には、亡くなった人を焼かずに生めた土坑墓（左写真）とその場で火葬した火葬墓（右写真）、別の場所で火葬したあと、骨や銅銭などを収めたと思われる銭貨埋納土坑が見つかりました。右写真の火葬墓では火葬の際に棺を載せた丸太（棺台）が焼け残っていました。



**平成 26 年度 堤ヶ谷遺跡発掘調査区**

弥生時代中期の竪穴住居 3 棟や縄文時代の落とし穴 2 基、中世のお墓 21 基・溝などの遺構が確認され、弥生土器・石器、古墳時代の金環・須恵器、中世の土師器・銅銭などが出土しました。

- : 弥生時代の竪穴住居
- ⋯ : 弥生時代のムラの範囲
- : 落とし穴（縄文）
- : 土坑墓（中世）
- : 火葬墓（中世）
- ★ : 銭貨埋納土坑